

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	鹿野建設(株)		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県宇都宮市岩曾町441-2 電話:028-689-3021		
自己評価作成日	平成 22 年 2 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 3 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県宇都宮市大和2-12-22 小牧ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、のどかな田園風景の中にあり、四季折々の景観を楽しむ事ができます。家庭的な温かさのあるホーム、家事仕事の好きな方々と台所に立ち、調理をしたり、買い物に出掛けたり、ホームでは歌を唄ったり、おはじきをしたり、お一人おひとりに合わせた生活スタイルで生活を送って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットを持つ事業所です。自治会に加入し、地域の一員として公民館活動、地区の体育祭、文化祭、老人施設の行事、また小・中・高の運動会、文化祭に参加するなど地域との交流が活発である。職員が様々な分野に積極的に働きかけ、「そばうち」「編み物」など多くのボランティアを受け入れている。事業所主催のクリスマス会には、高校生が参加してケーキ作りなどを楽しんでいる。「ひな祭り」「月見」など季節ごとの行事や、「花見」「紅葉狩り」など季節感を味わう外出の機会を多く持っている。事業所の広報紙「ぐうふあ」には事業所の状況、行事などはカラー写真入りで家庭に届けており好評を得ている。管理者が先頭に立って年齢差のある職員と共に、理念の「家庭的なホーム」を目指して、家庭的な雰囲気の中で楽しく生活が送れるよう支援している事業所です。

「ユニット名: なでしこ」 V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 (なでしこ)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者の方々が、地域の中で個性豊かに暮らして頂けるよう把握し、サービス提供できるよう独自の理念としてつくって、実践している。	「家庭的なホーム」を理念に、家庭的な雰囲気の中で、楽しく生き生きとした生活がおくれるよう、具体的な行動指針として「生活上での大事なこと」10項目を掲げ、管理者が先頭に立ち職員と一緒に実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の中の暮らしを大切に、地域交流や近隣の方々とも日々の暮らしを通して伝えている。	自治会に加入し、公民館活動、地区の行事、小・中・高の運動会や文化祭に参加するなど幅広い交流を持っている。多くのボランティアを受け入れており、クリスマス会には高校生が参加しケーキ作りを利用者と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを通して認知症の方の御家族の相談を受けたり、認知症の方の対応をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護サービスについての取り組みや状況報告を行い、話し合った内容を職員に会議等で伝え、活かしている。	6回/年開催している。事業所の行事、利用者の近況を報告し意見を聞いている。新型インフルエンザの対応についてアドバイスを受け、感染防止に繋がっている。参加の各委員から幅広い行事について好評を得ている。	会議の内容は広報紙に掲載するなどして家族に知らせることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方々と連絡を取り合い、ケアサービスについて御理解頂き協力関係を築いている。	市の協力を得て多くのボランティアの提供を受けたり、市の出前講座(今年度はストレスについて)をお願いし開催している。包括支援センターと日常的に連絡をとりケアサービスについて協力を得ている。	市担当者に事業所側から積極的に情報発信することで事業所を理解していただき協力関係を築くことに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	駐車場・門の整備が困難で入所者の方の安全性が保たれない恐れがあり、やむを得ず玄関の鍵は施錠しているが、できる限り一緒に行くなどして心に寄り添いケアに努めている。	全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所の敷地面積、周囲の環境から、安全を考慮して玄関は施錠をしている。利用者の外出希望には職員が同行するなどの配慮をしている。安全とリスクについて話し合っている。	運営推進会議の協力を得て施錠の是非と課題抽出、改善への取り組みについて検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームからの高齢者虐待防止に関する資料を会議で配布し話し合うなど、防止の意識が高まるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、グループホーム協議会からの高齢者虐待防止に関する資料を配布し、防止の意識が高まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際、契約書等十分に説明し質問等受け、理解を得ている。解約の時もよく話し合いを持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「よろず相談・苦情箱」を設け、いつでも利用できるようにしている。又、運営推進会議を通して、運営に反映させている。	家族と信頼関係を築き意見・要望が気軽に届くよう努めている。新しく利用者が入居し、その家族から新鮮な意見・要望を聴くよう努めている。内容は、管理者が朝の申し送りや職員会議で職員に報告、情報を共有して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや会議等、又は職員個々に意見交換を行い、反映させている。	職員会議、ミーティングで意見や要望を聞く機会を設けている。また、休暇取得などプライベートなことについてはユニットリーダーを通して意見・要望を聞く機会を設け反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は、人員を削減するということで業務を見直し努力して、厳しい状況にある。今後話し合いを持ち、職場環境を向上させていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公の研修については積極的に勧めている。しかし、人員不足もあり、参加できない場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や交流会に積極的に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症ケアの基本として入所者の方々と信頼関係を大切にしている。又、困っていることや不安があるときには、積極的に声掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たり、御家族・担当ケアマネ等により、情報を収集し、どのような事で困っているか必ず確認している。介護計画にも取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が、適切な介護サービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、お互い喜怒哀楽を共にし、食卓を囲み、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報交換を密にして、より良い介護サービスを行えるよう常に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が長年通っていた店や自宅に、御家族に相談の上、行くなど支援に努めている。	生活習慣を尊重し、利用者の要望により家族の了解を得て自宅までドライブし、周辺を周ってきたり、馴染みの店での買い物、美容院への支援をしている。花見などのお楽しみ行事は馴染みの場所に行くなど関係が途切れないよう支援に心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が認知症による混乱がある場合、職員が間に入り人間関係が円滑に行くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても様子確認に行くなど努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご希望や思いを伺い、叶うよう努めている。また、コミュニケーションを大切にして、本人本位になるよう努めている。	日々のコミュニケーションを大切に、顔の表情・仕草・問いかけなどから本人の希望・意向の把握に努めている。職員と利用者が1対1になる入浴時の会話は、利用者の気持ちを把握する良い機会になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者の各居室に、その方の馴染みの物を持って来て頂き、その方らしい暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議等で入所者の方々の心身状態や過ごし方などの情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は、御家族より意向を伺い、反映させている。又、会議にて担当者が課題を抽出・話し合いし、決めている。	利用者と家族の意向を伺い、連絡ノート、ヒヤリハットを基に職員会議、カンファレンスで課題・ケアを話し合い作成している。介護計画表は家族・現場の意見を反映できる独自のケアプラン表に改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしについて、個別記録を記入し様子変化を捉えるようにしている。又、モニタリングに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模な施設なので、御本人や御家族の状況に合わせて、ニーズに対応して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームは、地域密着なので地域のボランティア・学校関係等、常に交流を持つよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族と話し合った上で、かかりつけ医を決定し適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医(内科)が2週間ごとに看護師と共に往診をしている。昼夜の緊急時の対応、病院の紹介や連絡などの協力を得ている。歯科医も2～3回/月治療に来るなど適切な医療が受けられる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に来て下さっている病院の看護職員と気軽に相談できる関係となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所の方が入院した時は、御家族等・病院関係者と密に連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者がより良い暮らしができるよう、かかりつけ医と相談・支援していきたい。	利用者の心身状態に異変が生じた場合は、早い時点でかかりつけ医、家族に相談し対応することを法人として実践している。	重度化した場合や終末期の支援について事業所として、できること、できないことを明文化し、早い時点で関係者との共有を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の方の急変に合わせて、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に加入して、災害時協力を得ることができるよう努めている。	訓練は、夜間想定を含め2回/年実施し、自治会や地元消防団の協力を得ている。近隣の方々との協力づくりにも心がけている。マニュアルに連絡手順も明記されている。消防署には訓練計画と実施報告をしている。	全職員の避難誘導訓練への参加、各種防災設備の操作の実体験および臨機応変な対応が出来る体制に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し声掛け、記録物等が目に触れぬよう注意するようにしている。	人格を尊重しプライバシーや誇りを損ねないような「言葉かけ」などに配慮している。、どのようにしたいのか投げかけ、自己決定がしやすい声かけや、さりげない仕草からも気持を読み取り、対応することも心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にして、希望や充実した生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活様式を大切にして話し合い、ご希望に添った形で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ボランティアの方に散髪を行って頂いているが、その他に希望の理容室・美容室に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の方々にとって、食事は楽しみ事と捉え、嗜好を取り入れ一緒に作るよう努めている。又、片付けも行っている。	嗜好や希望を取り入れた献立を作成している。食材の買出し、料理、配膳、後片付けなど得意な分野を職員と一緒に担当している。食べやすい工夫もしている。行事食を多く取り入れ利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃より、食事量や栄養バランス等を観察している。嗜好を大切にするなどして、できるだけ安定的に摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の方々の自尊心を傷つけないように声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握して、その方に合った対策・対応をするよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、仕草などからのサインを察知し、そっと声かけてトイレに誘い、トイレでの排泄支援に努めている。失敗してもさりげなく処理を手伝い、安心させるような言葉づかいをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者の方のプライバシーを保てる範囲で確認を行い、一緒に原因を考え飲食物を工夫したり、運動するなど働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望を伺い、その方に合わせた形で入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は毎日午後の時間帯に設定している。1/3は入浴を嫌がるが、タイミングを見て声をかけをしたり、温泉好きの利用者には入浴剤を入れて入浴の支援をしている。入浴はコミュニケーションのチャンスにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の方の生活リズムを把握して、安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、病院・往診等で受診した内容について、連絡ノートで把握し、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるように、ケアを行っている。又、「できる」という実感が持てるよう役割作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の方々ができる限り自由や暮らしができるように、希望に合わせて外出するよう支援している。	ひとりで事業所付近の散歩を希望する利用者があり、家族の同意を得て遠方から見守り支援をしている。初詣、花見、運動会、文化祭、5月には日帰りのバス旅行をしている。年10回以上の外出の機会を設けており、地域と遊離しない生活を大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の希望に合わせて話し合い、所持して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、希望に応じて、電話をしたり手紙をやり取りするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地のよい雰囲気になるよう配慮し、生活感や季節感を採り入れている。	壁には色紙で作った梅の花を飾ったり、大きな雛飾りなど季節感を出す工夫をしている。24時間換気システムを取り入れており、温度・湿度も適切に管理されている。窓際には新聞や本を読んだり、ひとりになれるソファがあり居心地よい配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチがあったり、リビングにソファがあったりと、独りになれたりするよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの生活で使っていた物、馴染みの物を持って来て、居心地のよい空間となるようにしている。	家庭での生活と遊離しないよう、家庭で使用していた馴染みのものを、持参するようにしている。ご主人の位牌や家族の写真、手紙などが飾られ、その人らしい家庭的な雰囲気の居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方の持てる力を活かして、生活が出来るよう支援している。		